

# 愛知県環境影響評価審査会会議録

## 1 日時

平成22年8月18日（水）

午前10時から午前11時55分まで

## 2 場所

愛知県自治センター 4階 大会議室

## 3 議事

- (1) 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書について
- (2) その他

## 4 出席者

### (1) 委員

成瀬会長、井上委員、内田委員、岡村委員、岡本委員、北田委員、芹沢委員、竹中委員、永瀬委員、那須委員、成瀬委員、長谷川委員、廣畠委員、堀越委員、増田委員、松尾委員、柳澤委員、山澤委員、吉村委員

（以上19名）

### (2) 事務局（愛知県）

（環境部）西川部長、伊藤技監

（環境活動推進課）打田課長、近藤主幹、伊藤主任主査、高橋主査、後藤技師、村田技師

（大気環境課）石原主査、川口技師

（水地盤環境課）加納技師

（自然環境課）小川主査

（資源循環推進課）大橋主査、戸田主査

### (3) 事業者等

（小牧市）仲根課長

（岩倉市）天野課長

（小牧岩倉衛生組合）丹羽課長、平岩技監、後藤係長、岩本主事

## 5 傍聴人等

傍聴人 8 名、報道関係者 1 名

## 6 会議内容

### (1) 開会

### (2) 議事

ア 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書について

- ・ 会議録の署名について成瀬会長が、井上委員と岡村委員を指名した。
- ・ 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書について、別紙 1 のとおり諮問を受けた。
- ・ 資料 1 (小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書等)及び資料 2 (小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書についての意見の概要等)について、事務局から説明があった。

### < 質疑応答 >

**【北田委員】** 複雑な地形を考慮し、トレーサー実験等これまでにない調査等が行われたことは良いと思う。

冬季のダイオキシン類の環境大気調査結果についてだが、事業実施区域近傍の調査地点である野口や大山と、冬季の下層の風向で風上側に位置する池之内や光ヶ丘小学校の結果を比較すると、野口や大山の方が若干濃度が高い。差は、pg-TEQ/m<sup>3</sup> で小数第 2 位程度であり問題になるレベルではないが、現施設の寄与分とも考えられる。

一方、予測結果によると、新施設からの寄与分は pg-TEQ/m<sup>3</sup> で小数第 3 位程度と極めて小さくなっている。新施設の方がより環境対策が講じられていることを考慮しても、現施設と新施設の寄与分がこれだけ違うものなのか。

**【事務局】** 予測にあたっては安全側になるようバックグラウンド濃度を設定している。

**【北田委員】** 安全側の予測であることは理解する。ただ、新施設の寄与分を正確に見積もることは必要である。将来予測を行う上で池之内や光ヶ丘小学校の現況をバックグラウンドとす

るのが相応しいのであれば、そうするのが自然ではないか。

【事務局】 ご指摘の点を検討し、次回までに整理する。

【岡村委員】 それに関連して、冬季のダイオキシン類の環境大気調査結果については、冬季で現施設が稼働している状態と関連すると思うが、現施設が稼働していない状態のデータはあるか。

【事務局】 ご指摘のデータの有無について確認する。

【吉村委員】 景観の予測結果を見ると、現施設の白い煙突は存在感がある。新施設が設置されたら、現施設の煙突は撤去されるのか、それとも周辺景観と調和した色彩に塗り替えるのか。

【事務局】 予測結果では、現施設の煙突については変化がないこととなっている。

【事業者】 現在のごみ処理施設の煙突については、新施設が完成し安定稼働した後、将来的には撤去することとなると思う。

【芹沢委員】 現施設を撤去するのであれば、解体に伴う廃棄物等の発生等について、影響を予測評価すべきである。

【事務局】 現施設の解体に係る具体の計画がないことから、今回、予測評価の対象としていないと理解している。

【事業者】 現施設のうち、新施設の設置に関連して解体する管理棟については、解体に伴う影響を予測評価している。一方、ごみ処理施設については、現時点で具体の解体計画がないことから予測評価を行っていない。

なお、将来、ごみ処理施設を解体する場合には、適切な環境保全措置を講ずる。

【芹沢委員】 新施設が安定稼働すれば、通常、現施設は解体撤去する。長期間に亘り撤去する予定がない場合については、環境影響評価の実施までは必要ないと考えるが、撤去する予定があるならば解体工事は関連事業として工事計画に含めるべきではないか。

【事務局】 将来的には解体撤去するものだが、補助金または交付金を受けて設置した施設でもあり、すぐに解体ということは考えにくい。しかし、ご指摘を踏まえ、今後、このような解体撤去の影響の取り扱いについて、整理していく。

【芹沢委員】 解体工事は別物ということで、環境影響評価を実施しないケースが多いことに関して問題提起したものである。今

後の課題でもあるが、一連の事業と見なせる場合については解体工事も含めて環境影響評価が実施されるようお願いしたい。

【事務局】 ごみ処理施設は愛知県環境影響評価条例に基づき環境影響評価を実施している。ご指摘の点を踏まえた適切な環境影響評価が行われるよう、ごみ処理施設の更新を行う市町村等の事業者を指導していきたい。

【竹中委員】 供用時における機械等の稼働に伴う騒音に対する環境保全措置として、施設周辺にできる限り大きな木を植えることある。施設のイメージ図からは、この環境保全措置の内容が見て取れない。実際に、大きな木を植えることは可能なのか。

【事務局】 イメージ図は、実施する全ての環境保全措置を表現しておらず、あくまでイメージとして掲載している。

【事業者】 ご指摘のとおり、高木を植栽するのは難しいので、周辺の環境にも配慮しながら成長の早い木を植栽することを考えている。

【竹中委員】 成長の早い木を植えることは、生態系の観点から周辺へ環境影響を及ぼす可能性もあるので、周辺環境との調和にも配慮しながら樹種を選択していただきたい。

【芹沢委員】 評価方法について、植物は影響がないと評価しているにも関わらず、回避低減が図られているとしている。影響がないのであれば、「回避低減を図る」という表現は必要ないのではないのか。

ただ、植物の予測結果について「全く影響がない」としているが、本当にそうなのか。湿地の下流で建設工事が行われ、湿地の水抜けにより、湿地の乾燥化が起こる可能性が考えられないか。

また、現地調査でコミゾソバが確認されたとのことだが、写真を確認させてほしい。

【事業者】 上流にあるコモウセンゴケ群落については、岩盤の上を流れる表流水により湿地が涵養されており、地下水が湧き出るものではないので、水抜けが起こる可能性は低いと考えている。

コミゾソバの写真については別途お示しする。

【芹沢委員】 湿地は、岩盤上ではなく粘土層の上を流れて浸出する地下水で涵養されていると思う。今回の建設工事で湿地の水抜けが起こる可能性は低いと思うが、評価として全く影響がないと言い切れるかどうかは疑問である。

【柳澤委員】 鳥類の調査についてだが、猛禽類調査は調査地点が1箇所のみである。猛禽類は行動圏が広いため、事業実施区域の周辺1km程度までの状況を調査するのが一般的である。1km範囲をカバーし得る調査地点の設定が必要である。また、猛禽類調査が3月から行われているが、オオタカについて言えば、誇示行動、巣材運びなど繁殖につながる行動が確認されるのは、1月から3月にかけてである。1月から8月初めまでの調査が必要である。

方法書の審査で現地視察した際には、オオタカの飛翔も確認し、事務局には伝えている。事業実施区域周辺には猛禽類が繁殖している可能性があると考えて調査範囲や、調査期間を設定すべきである。

また、鳥類にとって8月は夏季ではなく秋季なので、四季調査の時期の設定について留意してほしい。

鳥類調査では、ラインセンサスやポイントセンサスが行われているが、任意観察調査ではないので密度のデータを記載すべきである。

【事務局】 ご指摘については、次回までに整理する。

【事業者】 調査地点については、方法書時点のご指摘を踏まえて、東側の谷を見渡すため補助調査地点を設定するなど十分な配慮を行っている。

【柳澤委員】 3月の猛禽類調査の結果を見ると、事業実施区域周辺でオオタカの誇示飛翔が確認されている。このことから、この近くに営巣場所がある可能性も考慮して4月以降の調査計画を検討すべきであった。巣材運びは3月に頻繁に行うが4月からは抱卵期でありあまり目撃されなくなる。3月までの調査をしっかりと行うことが必要である。

【芹沢委員】 猛禽類の飛翔図は、通常2箇所以上の調査地点結果を基に作成するが、今回、どのように飛翔図を作成したのか。

【事務局】 ご指摘については、次回までに確認する。

【長谷川委員】 新施設が事業実施区域の北側、山側に設置される計画で

ある。このため、事業実施区域の北側の森林が一部伐採される。マント群落が改変されることによる影響はないのか。

また、日影図を見るとカヤネズミの生息地が日影になるようだ。小動物は微気候により影響を受ける場合があるが生息の影響はないのか。

さらに、ヒメボタルの幼虫の餌となるオカチョウジガイが確認されているが、ヒメボタルは生息していないのか。

【事務局】 日影の影響についてだが、長時間日影になる範囲は事業実施区域内の近傍に限られており、カヤネズミの生息地への影響は小さいと評価されているが、ご指摘の点について、次回までに整理する。

【山澤委員】 大気質の予測結果は膨大な調査結果から導き出されていると思うが、技術的な検討はどのように行われているのか。

供用時のばい煙の排出の予測結果を見ると、年平均値の最大着地濃度は北西側に出現している。風配図を見ると事業実施区域の主風向は北風なのに南側に最大着地濃度地点が出現する結果となっていない。地形の影響かと思うが、濃度分布が合理的であるとの確認はされているのか。

【事務局】 ご指摘のとおり、年平均値における最大着地濃度が北西側に出現したのは、事業実施区域の北側に山があるという地形的な要因を反映した結果と考えられる。

【事業者】 予測モデルは、資料編で具体的に記載しているとおおり、再現性のあるモデルだと考えている。

予測にあたっては、予測モデル設定の初期段階で学識者の助言を得ている。

【北田委員】 風向風速の現地調査では、地上と山地では風向が異なる結果が出ている。地上の調査地点である野口では山に沿った風向だが、山頂付近の兒の森では北西が主風向である。地形の影響で風向がねじれている。

今回は、一般的に用いられるプルーム式のような一定の風向を用いた拡散計算による予測ではなく、風向のねじれも考慮した三次元マスコンモデルを構築しており、予測手法としてはより現実に近いものであると考えられる。予測結果を精査しないとわからないが、煙突高さに比べ煙突直近の北側の山地の標高が高いため、南より風があった場合、

排出源に近い山側の計算結果が高くなると考えられ、年平均値も同様な結果になる可能性がある。

【事務局】 本日は、色々なご指摘をいただいた。審査会での意見や指摘について、事業者へのヒアリングを行い、次回までに整理していくので、よろしくお願ひしたい。

- ・ 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書について審査するため、成瀬会長の指名により、別紙2のとおり小牧岩倉ごみ処理施設部会を設置した。

イ その他

- ・ 事務局から特にない旨の発言があった。

(3) 閉会



22環活第114-3号

平成22年8月18日

愛知県環境影響評価審査会

会長 成瀬 治興 様

愛知県知事 神田 真秋



小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価  
準備書について（諮問）

このことについて、愛知県環境影響評価条例（平成10年愛知県条例第47号）第  
20条第4項の規定に基づき、環境の保全の見地からの意見を求めます。

担 当 環境部環境活動推進課  
環境影響評価グループ  
電 話 052-954-6211（ダイヤル）



## 愛知県環境影響評価審査会 小牧岩倉ごみ処理施設部会委員

委員名	所属等
井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
今榮 東洋子	名古屋大学名誉教授
内田 臣一	愛知工業大学工学部教授
北田 敏廣	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
大東 憲二	大同大学工学部教授
竹中 千里	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
那須 民江	名古屋大学大学院医学系研究科教授
成瀬 治興	愛知工業大学工学部教授
長谷川 明子	財団法人日本生態系協会評議員
堀越 哲美	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
光田 恵	大同大学情報学部教授
吉村 いづみ	名古屋文化短期大学教授

(敬称略、五十音順)